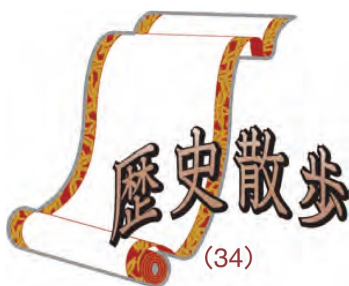


士清墓所と福蔵寺

バス…三重交通バス「津
高校前」下車徒歩5分
車…伊勢自動車道津IC
から車で10分



昨年12月1日号で紹介した反古塚のある谷川神社の隣に福蔵寺がある。現在はお堂があるのみであるが、かつては今よりも少し東の西古河町に広い寺域を持つ大きな寺であったと伝えられる。

この福蔵寺の墓所に谷川士清の墓があり、隣に孫のことつら土行の墓が並んでいる。

さて、晩年の士清とその後の谷川家を取り巻く状況は、決して恵まれたものではなかった。士清と親交のあった津藩7代藩主のたかほら高朗が退くと、藩は『大日本史』を編さんした水戸藩彰考館の学風を導入して教育方針の転換が図られ、士清に師事した人々は絶家や隠退を命ぜられて、その学風は一掃されてしまった。士清には「他参留」(みだりに領地外に出ないこと)、子のこと士逸には「所払い」(領外追放)の処分が下されている。

士清の思想が警戒された原因に、彼の中の幕政に対する強い反発心があったことは否めない。

しかし、彼自身はこれを行動に移すことなく、ひたすら国学や神道を究める道をとった。士清の死後110年余り、明治20年になってようやく士清とその子孫が取り組んだ我が国最初の本格的な五十音順の辞書『和訓栞』が完成する。士清の遺志を引き継いだ谷川家の人々の熱意と苦心の結晶であった。福蔵寺墓所の一角、国史跡にも指定されている士清の墓所には絶えず花が供えられ、士清への尊敬と追慕の思いは、今も人々の心に引き継がれている。

(「広報津」平成21年2月1日号)

